

NEWSLETTER



Main gate of Andalas University, Indonesia

日本語なまりの英語で堂々と話そう。

岐阜大学国際交流委員会委員長(岐阜大学長) 黒木登志夫

『ローマの休日』の最後に、オードリー・ヘップバーン扮する王女様が各国の新聞記者のインタビューに答える場面があるのを覚えているだろうか。面白いのはインタビューの中身ではなく、新聞記者が話すお国なまりの英語である。ドイツの記者はドイツなまりの英語で、フランスの記者はトルシエのように話している。ほんの短い英語ではあるが、どこの国のかが分かってしまう。

英語を習っている人は、いつかネイティブのように話したいと願っているという。しかし、それは絶対に無理である。われわれはどうがんばっても、アメリカ人やイギリス人のような英語を話すことはできない。人によって程度の差はあるものの、日本人には日本人のアクセントがある。インド英語が直ぐに分かるように、日本人が話していることはちょっと聞けば誰でも見当がつく。聞き取れないような強いアクセントでは困るが、われわれは日本語なまりで堂々と英語を話せばよいのである。

日本人離れしたきれいな発音の人がきちんとした英語を話すとは限らない。表現が稚拙であったり、内容がなかつたら、国際的には通用しない。問題はアクセントよ

りも内容、そして表現である。そのためには、日本語がきちんと話せなければならない。日本語下手なのに英語だけうまいなどということはあり得ない。母語より外国語が上手という人はどこを探してもいないはずである。

国連英語というのがある。外交の舞台、国連では、主張すべき時にきちんと主張しなければならない。自分の考えを正しく伝え、時には人の意見を正すためには、アクセントよりも内容が大事である。日本人が修得すべき英語は、教科書に書かれているような文法的に間違っていない正しい英語ではないと、WHOに勤めていた経験から思う。

そのためにはどうすればよいか。いつでも英語を話せるようにすることである。留学生がいる大学のキャンパスを英語実践の場に変えたらどうだろう。そして、いくつかの授業は英語で行うようにできないだろうか。第1回岐阜シンポジウムで講演したスウェーデンのLangstrom教授は、このような学会は英語で行き、若い人の英語教育の場としなければという意見であった。

新交流協定大学の紹介

ヴェスプレーム大学

教育学部 助教授 今井 一

昨年3月本学と学術交流協定を締結したヴェスプレーム大学があるヴェスプレーム市はヴェスプレーム県の県庁所在地であり(本学と似ている)、ハンガリーの首都ブダペストの西南約80kmに位置している。約20km南に“ハンガリーの海”といわれるバラトン湖があり、夏のバカンス時期には遊泳やヨットを楽しむ人々で賑わっている。また、約10km西に磁器で世界的に有名なヘレンドがある。ハンガリーとは剣道を通して交流を行っており、私は1993年から5回、本学剣道部の学生諸君は1997年から3回、この地を訪問している。そのため今回は新交流協定大学の紹介をすることになった。

ヴェスプレーム大学は、1949年にブダペスト工科大学の地方学部として設立され、その後独立した。開学当初は、農業化学科と化学工学科を有し、国内でも優秀な成果を納めていた。後に情報科学科とオートメーション学科を併設した。1989年に東欧で大改革が起ったが、ヴェスプレーム大学では翌1990年に新学部増設に先駆けて外国語学科を設置した。1991年には工学部と教員養成学部を新たに設け、名実ともに総合大学として新しいスタートを切った。2000年にはケストヘイ市にある短期大学を統合し、農学関係の学部を新たに組み入れた。現在、3学部31学科を有しており、加えて大学院博士課程、別科として語学学校、教育コミュニティーセンター、欧州研究センターなども開設している。1949年当時、学生数は600名程度であったが、現在は5000名を越え

ている。国内でも屈指の総合大学として、その地位を少しずつ高めている。また、国際学術交流も1990年以降盛んになっており、欧州各国の大学などとも交流を行っている。

1997年6月に岐阜県はヴェスプレーム県と友好提携した(これに連動して今回の学術交流協定に発展したといえよう)が、同年7月に本学剣道部はヴェスプレーム市で開催された第7回全日本剣道連盟杯争奪ハンガリー国際剣道大会(参加国9カ国、参加選手約130名)に参加した。これは私とハンガリー剣道連盟の技術局長で当時ヴェスプレーム大学教員養成学部助教授であった阿部哲史先生との関係から実現したものであった。大会会場の一部として大学の体育館が使用された。1999年9月にはヴェスプレーム市で岐阜県を紹介する“ギフ・ウィーク”が開催された。その一環としてヴェスプレーム大学で工学部の堂田邦明教授が記念講演、本学剣道部がハンガリー剣道連盟の世界選手権候補選手と親善試合を行った。

ハンガリー剣道連盟にはヴェスプレーム大学の教職員、学生が複数所属しており、その点では両大学の交流は1997年からすでに始まっていたといえよう。学術交流協定が結ばれたことで、ヴェスプレーム大学との交流が今後進展することを期待している。



親善試合後の記念写真（ヴェスプレーム大学体育館）

アンダラス大学へようこそ

アンダラス大学 数学自然科学部長 Edison Munaf

アンダラス大学は、インドネシアの州立大学の一つです。大学は1956年に創立され、ジャワ島以外の大学では最も古い大学です。

アンダラス大学は、1990年に現在の500ヘクタールの広大な新しいキャンパスに移転しました。そこは、Liman Manisの美しい丘陵地帯にあり、西スマトラ地区の州都パダンの東12kmに位置します。大学は、農学部、医学部、数学自然科学部、法学部、経済学部、動物科学部、文学部、工学部および政治学部の9学部と工学および農学の2つの専門学校からなります。学部卒業プログラムの他に、農耕学、農村地域開発、土壤科学、動物科学、昆虫学／植物病理学、開発計画、医学、化学、生物学、環境科学、農業産業および法律学の分野には修士コースの学生のためのプログラムがあり、一方、農業産業と農

芸科学の分野にはドクターコースがあります。

現在、教官と事務系職員数はそれぞれ2,250名および2,125です。一方、学生数は、14,350名以上であり、内訳は、博士課程34名、修士460名で、残りは学部生となっています。学期は、8月から始まり7月で終わります。また、4月と10月の年2回、卒業式があります。

とても喜ばしいことには、2001年4月にアンダラス大学と岐阜大学両学長間で正式に交流協定が結ばれました。



Student activity at the campus

バングラデシュ農業大学

農学部 教授 原 徹夫

バングラデシュは農業生産が国民総生産の約30%を占め、国民の約60%の人々が農業に従事しているため、農業技術の進歩は国の発展につながる。この農業技術の向上をめざして、バングラデシュ農業大学は1959年に創立された。獣医学部、農学部、畜産学部、農業経済及び農村社会学部、農業工学部、水産学部からなり、教官約600人、学生約5,000人であり、農業中心の研究・教育が行われている。とくに、農業教育における実習は重要視され、作物学、獣医学、畜産学、水産学では教官と学生が一緒に現場に出て、実地指導が行われている。卒業生は、農業関係の大学、研究所、企業だけでなく、各種の分野で活躍し、バングラデシュ農業大学の名を高めている。大学キャンパス(485ha)は首都ダッカから北へ120kmのマイメンシン市のはずれに位置し、スマトラ川に隣接している。キャンパス内には各学部がスペースに余裕をもって配置され、高い建物が少ないため、

キャンパス中央に立つとても広く感じる。付属施設、研究圃場、学生寮、教官宿舎、植物園などもあり、学生と教官の町といった感じである。私が共同研究のために訪問した農学部の建物は4階建てで(写真参照)、古さを感じるが、頑丈で、農学部としての設備はすべて整っていた。

バングラデシュ農業大学は、岐阜大学にとって、バングラデシュでは最初の交流協定大学であり、両大学間の交流が活発になるようにと願っている。



Faculty of Agriculture, BAU at Mymensingh

在外研究報告

平成13年度岐阜大学学術交流協定大学との 研究者派遣助成 Utah大学整形外科脊椎外科部門訪問報告

医学部附属病院 助手 宮本 敬

平成13年11月4日～18日の間、アメリカのUtah大学整形外科教室を訪問し、脊椎側弯症の治療についての学術交流を行いましたので、簡単に報告させていただきます。

脊椎側弯症に対する外科的治療の臨床的研究

Brodke助教授の指導のもと、小児側弯症に対する手術治療の観察・研修を行いました。規定の誓約書を書き手術に加わることができたのが幸いでした。

特発性脊椎側弯症に対する形状記憶合金を用いた

脊椎非固定矯正術の基礎的研究

これは弯曲の凸側の椎骨に形状を記憶させたステープルを打ち込み、椎骨片側の長軸成長を抑制することにより、脊椎を固定することなく弯曲を矯正する夢の治療法です。Braun助教授の指導のもと、Goatに対するこの手術を学びました。

脊椎外科に関するユタ大学・岐阜大学間の学術交流

ユタ大学整形外科脳神経外科合同集会において、『リウマチの頸椎病変』、『折損した椎弓根スクリューの抜去法』について講演を行いました。また、ユタ大学で行つてい

るインターネットを用いた側弯症患者への啓蒙活動(<http://www.iscoliosis.com/>)に関して、我々の運営しているweb siteとの相互リンク及び今後の互助活動を計画しました。

訪問に際し、黒木登志夫学長、整形外科学教室 清水克時教授、国際交流委員会の方々、及びその助成金出資者の方々によるご協力をいただきましたことを、心から感謝いたします。本制度により今後も有意義な国際交流が行われることを願っております。なお、Utah大学訪問の詳細に興味のある方は私のweb site (<http://www.gjx.or.jp/~kei/>)をご覧になってください。



Utah大学医学部附属病院の
脊椎診療グループの医師達と共に



Utah大学医学部附属Primary Childrens' Medical Center (小児病院) の手術室にて



Utah大学医学部附属病院



Utah大学整形外科の関連施設である
Shrine Intermountain Hospital

第2回 AIEJ/ユネスコプログラム

シドニー工科大学での研修について

総務部研究協力課研究総務係
研究総務主任

横井利行



平成13（2001）年度第2回AIEJ／ユネスコ青年交流信託基金国際交流担当者プログラムにより、岐阜大学から5名の事務官（塩見尚子 総務部人事課給与第二係員、横井利行 総務部研究協力課研究総務係研究総務主任、北野信哉 経理部経理課給与係、村瀬由佳 学生部留学生課留学生係員、飯沼千代香 医療技術短期大学部学務係学務主任）が大学間学術交流協定校であるシドニー工科大学（以下「UTS」という。）へ平成13年11月3日から11月17日の2週間、研修を受けるため、派遣されました。このプログラムは、我が国及び外国の大学等に所属する国際交流担当教職員が相互に交流し、特定のテーマによる研修を行うことにより、国際理解を図ることを目的とするものです。

このプログラムにより、我々5名は、UTSにおける留学生の受入体制に関するワークショップ、UTSに日本の大学から来ている交換留学生との意見交換、来年UTSから岐阜大学等へ留学する学生との懇談、及びUTSの国際交流担当者との討論を実施し、UTSにおける戦略的な国際交流の政策を研修しました。UTSは留学生の獲得を積極的に行っており、留学生の数は3,000人以上です。留学生の獲得は単なる国際交流を目的とするだけでなく、大学運営資金の獲得の重要な手段と見ており、それゆえに留学生の受入体制、受入施設等はとても充実したものになっています。これは、岐阜大学を含む国立大学が独

立行政法人化後に採算性を考える上でとても参考になると思いました。さらに、UTSでは、学生を国外に派遣することも積極的に行っています。日本の大学では、留学生を受け入れることの方を重視しているように思いますが、UTSにおいては、国際的な物の見方や異文化を理解する力を育て、国際感覚の豊かな学生を育成する等、国際交流推進の観点から積極的に学生を留学させていることに非常に興味深く思いました。

また、シドニーに2週間滞在し、ユネスコ世界遺産のブルーマウンテンをはじめ、シドニー市内各所を視察し感じたことは、シドニーは当初考えていた以上に美しい多文化都市であるということでした。今回このようなすばらしい機会を与えていたいたい、関係機関及び快く送り出していただきました職場の皆様に感謝するとともに、この経験を今後の岐阜大学の国際交流の仕事に生かしていきたいと思います。



UTSタワービル



UTSの国際交流担当者の方々と

日本語・日本文化研修プログラム

留学生センター 教授 牟田おりゑ

岐阜大学留学生センターは2001年10月に「日本語・日本文化研修プログラム」を発足させました。日本政府奨学金留学生を対象にした1年プログラムで、二つのカテゴリー（岐阜大学の交流協定校の学部学生、各国の日本大使館による選抜試験を経て推薦される学生）があります。いずれも、本国で日本語／日本研究を専攻する在学中の学生です。

第一期参加者8名の国別内訳はチェコ（カレル大学）、ポーランド（ワルシャワ大学）、トルコ（チャナツカレ三月十八日大学）、韓国（テグ大学）、中国（広西大学）、アメリカ（ユタ州立大学）、スウェーデン（ルンド大学）、オーストラリア（西オーストラリア大学）の8か国で、まさに「国際的」なクラスです。最初の半年間に日本語・日本事情を中心とした授業を行い、後半は各自のテー

マを追求し、小論文のための調査・研究を目指します。日本中世史、漢字教育や若者の日本語、また、日本における差別など、様々なテーマを持った学生達です。

来日は初めてという学生にとって、岐阜大学での1年は「ナマの日本」を体験する貴重な時間なので、見学・旅行・ホームステイなども組み込まれています。これは地域住民の御協力なしには実現できないことですから、大学と地域が連携しての幅広い国際化を実現していると言えます。また、プログラム期間中に20歳を迎えた学生もいて、若者の国際化という意味でも、岐阜大生との交流を活発にできればと思います。



外国人留学生からのメッセージ

日本語日本文化研修生

ヤツェク・メンディク
(フルシャワ大学)



私はポーランドのフルシャワ大学の日本学科の学生です。2001年の春、文部科学省の試験に受かって、10月4日から岐阜大学に一年間の留学をするようになりました。日本は初めてだから、全部目新しいことばかりです。しかし、ここ2ヶ月で気候にも生活にも大分慣れてきたと思います。

岐阜市については、とてもいい町で、よい感じがする

と思う。そんなに大きくないし、住みやすいし、しかも歴史の古い町である。面白い所が沢山あるので、よく自転車に乗って小さな遠足に行く。

岐阜大学では、日本語日本文化研修というコースに入っています。一生懸命勉強している。そのコースは、水準も高く、授業も多い。といっても、うちの大学よりスピードが遅いから、私にとっては楽だと思う。岐阜大学の先生方は皆とても親切な人で、もし何か問題があれば必ず助けて下さる。

この2ヶ月で日本人の友達が沢山できて、彼らのお陰でいろいろな経験が出来るのみならず、日本語の練習も出来ると思う。

今までの岐阜大学での滞在は、本当に満足だと確信を持って言える。この一年間の留学の思い出は決して一生忘れないであろう。

い視野を、少しづつ身に付けられてきたように思えます。また、卒業後の自分の可能性を新たに見出せた気がします。語学留学では味わえない現地の学生生活を、この交換留学の制度は可能してくれるので、岐阜大学の皆さんにも、もっと利用してもらえたらいいと思います。



留学生体験記

ブリスベンで1年間を過ごして

教育学部 学校教育講座 4年

吉川 依里子



私は一年間、オーストラリアのブリスベンにあるグリフィス大学で学びました。ゴールドコーストのビーチが、電車で1時間位のところにあり、休み期間中にはホストファミリーや友人たちと一緒に遊びに行きました。オーストラリアは、学期中と休み期間中のメリハリがしっかりしていて、クリスマスなどのまとまった休暇には家族・親戚が集まって過ごします。陽気な人々が多く、友好的で、道ですれ違う人々が挨拶を交わすなど、日本とはまた一味違った雰囲気があります。

様々な民族が住んでいる国での一年間は、今まで当然と思っていた事柄が単なる私自身の思い込みであるということに気づかされ、様々な意見・考えを受容できる広

のこと話をしました。そのことが、私たちの関係をより深めてくれました。そしておみこしも、3位と努力が結果として表されました。これは、私たちみんなが深い友情の中で一つの目標に向かって頑張ったおかげだと思います。これからも、こういったイベントや過程を通して留学生との絆をより一層深めていくつもりです。



留学同好会の活動紹介

Ryugaku同好会から得るもの

教育学部 生涯教育講座 2年

奥村 明日香

私たちRyugaku同好会は、まだ今年できたばかりの新しいサークルですが、毎日本常に楽しい日々を送っています。主な活動として、毎月留学生と共に行うイベントやその過程を通して交流し、絆を深めています。10月は、岐大祭でのおみこしに参加しました。それは、私たちにとっても留学生にとっても本当に充実した日々になりました。様々な國の人形や地球儀を作る中で、全員がアイディアを出し、個性ある作品に仕上げてくれました。また、毎日必ず集まって、おみこしを作るだけでなく互いの國の言語や文化、その他個人的なことまで本当に多く

学術交流協定締結

(平成13.12.1現在)

■大学間協定 (24大学)

大学名	国名	協定締結日	大学名	国名	協定締結日
※カンピーナス大学	ブラジル	1984. 8.27	※グリフィス大学	オーストラリア	1995. 3. 3
※サンディエゴ州立大学	米国	1985. 5. 7	※ユタ大学	米国	1997. 5.28
浙江大学	中国	1986. 4.21	※ユタ州立大学	米国	1997. 5.29
広西大学	中国	1986. 4.24	※ハノイ工科大学	ベトナム	1998. 6.26
電子科技大学	中国	1986. 7.21	ウエストバージニア大学	米国	1998.12.16
無錫轻工大学	中国	1986. 9. 3	カセサート大学	タイ	1999. 8. 5
浙江医科大学	中国	1987. 4.22	※アバティダンディ大学	英国	2000. 6.28
中国医科大学	中国	1987. 8.15	内蒙古農業大学	中国	2000. 8. 8
※ルンド大学	スウェーデン	1987. 9.12	※シドニー工科大学	オーストラリア	2000. 8.14
※ノーザンケンタッキー大学	米国	1990.10. 1	※ウェスプレーム大学	ハンガリー	2001. 3. 2
※ソウル産業大学	韓国	1992. 3.19	アンダラス大学	インドネシア	2001. 4.23
サント・トマス大学	フィリピン	1994. 6.14	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2001. 8.23

■部局間協定 (6機関)

大学・学部等名	国名	協定締結日	協定部局	大学・学部等名	国名	協定締結日	協定部局
チュラロンコン大学 理 学 部	タイ	1994. 3. 5	農学部	コンケン大学 学部間共同開発研究所	タイ	2000. 3.27	農学部
慶北大学 農 科 大 学	韓国	1998.12.21	農学部	※浙江大學 医学院	中国	2000.12. 4	医学部
コンケン大学 農 学 部	タイ	2000. 3.27	農学部	※コンケン大学 医	タイ	2000.12.18	医学部

※印は、授業科等相互不徴収の大学を示す。

国際交流状況について

1. 岐阜大学外国人研究者受入数

(H13.12.1現在)

学部等 区分	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	農学部	その他	合計
私費	0	0	6 (2)	11 (5)	3	0	20 (7)
委任経理金・その他	0	1	1 (1)	4	1 (1)	1	8 (2)
合計	0	1	7 (3)	15 (5)	4 (1)	1	28 (9)

1か月以上本学に滞在し、岐阜大学外国人研究者受入れ規則に基づき、受入れを承認された外国人研究者をいう。() 内は、女子を内数で示す。

2. 岐阜大学外国人研究者などの訪問数 (1か月未満) (平成12年度)

学部等 区分	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	農学部	その他	合計
合計	19	1	53	16	12	9	110

1. 以外で、本学に短期間滞在した外国人研究者等をいう。

3. 岐阜大学教職員海外渡航者数 (平成12年度)

学部等 区分	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	農学部	その他	合計
出張	22	11	53	183	48	32	349
修業	13	14	39	20	5	44	135
合計	35	25	92	203	53	76	484

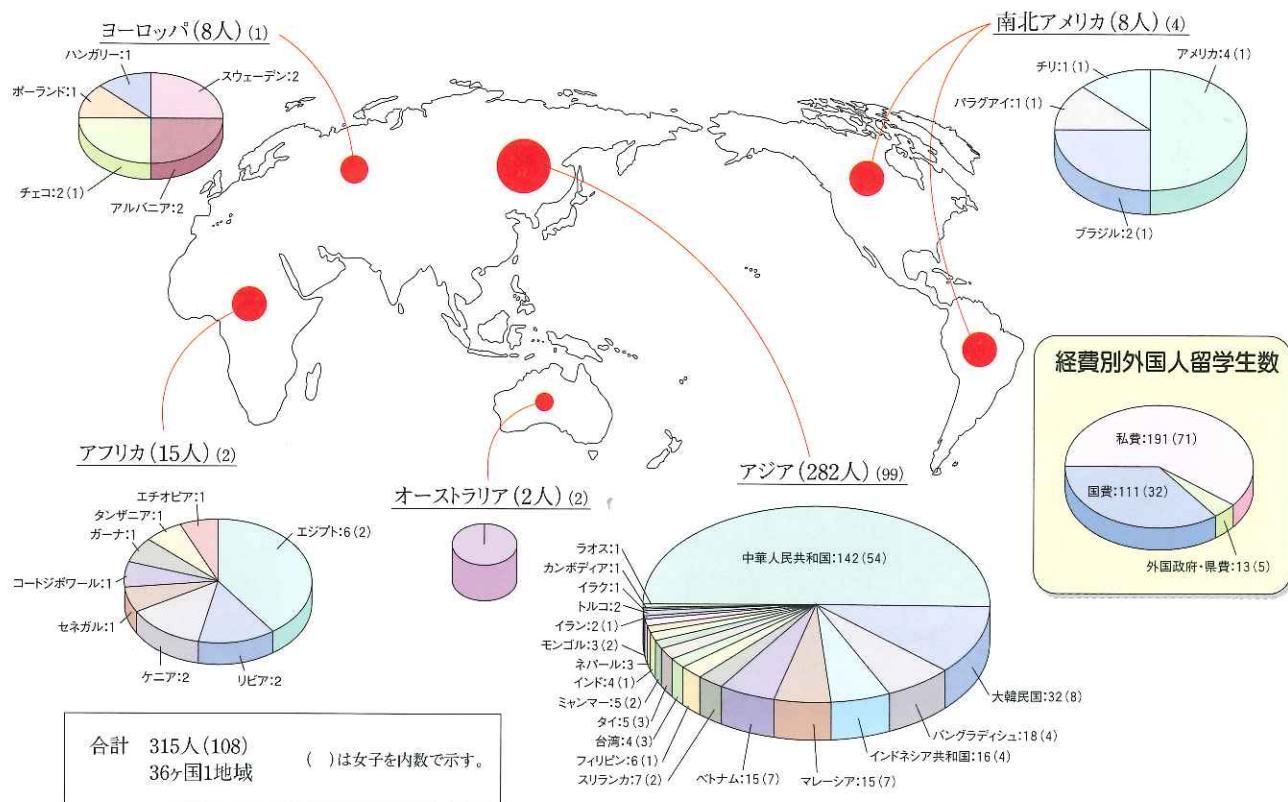
(私事・休職渡航を除く。)

4. 岐阜大学学生の留学者数 (平成12年度)

学部等 区分	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	農学部	その他	合計
短期留学推進制度	2	0	0	0	0	0	2
大学間交流協定	2	0	0	0	1	0	3
サマースクール	6	0	2	0	2	0	10
休学による留学	1	1	3	0	5	0	10
合計	11	1	5	0	8	0	25

岐阜大学国別外国人留学生数

(2001年10月1日現在)



短期留学推進制度（派遣）の留学情報

この制度は、大学間交流協定に基づき、外国の大学との間で相互に学生を交換する場合に、下記の「資格及び条件」を満たしている者を、日本国際教育協会に奨学金候補者として推薦する制度です。

渡航時期は、4月1日から翌年の3月15日までの間に渡航できる者です。

「資格及び条件」

- ①派遣する期間は、3か月以上1年以内
- ②短期留学生派遣計画に基づき、派遣先大学が受入れを許可する者
- ③学業成績が優秀で、人物等に優れ、学部長又は研究科長が推薦する者
- ④派遣先大学での専攻は問わないが、留学の目的及び計画が明確で海外への留学により、効果が期待できる者
- ⑤経済的理由により、自費のみでの留学が困難な者
- ⑥留学期間終了後、本学に戻り学業を継続する者または本学の学位を取得する者
- ⑦英語圏の留学は、TOEFL-CBTスコアレコード173点が目安です。

なお、日本国際教育協会の奨学生として不採択になった場合でも自費(私費)により留学することができ、派遣先大学での授業料等の免除と一定数の単位互換が認められます。

申請手続きについては、毎年9月中旬を目途に各学部(研究科)に通知します。申請した結果については、日本国際教育協会から、1月下旬に決定通知があります。

※派遣先大学等は、P6の表又は「学生便覧」を参照してください。

国際交流奨学寄附金協力団体等一覧

(平成13年12月現在)

イ ビ デ ン 株 式 会 社	岐 阜 プ ラ ス チ ッ ク 工 業 株 式 会 社
医 療 法 人 東 山 会 長 良 川 病 院	クロ レ ラ 岐 阜 販 売 株 式 会 社
株 式 会 社 市 川 工 務 店	コ ー テ ッ ク 株 式 会 社
株 式 会 社 工 ヌ テ ッ ク	国 際 ソ ロ プ チ ミ ス ト 岐 阜 会 社
株 式 会 社 大 垣 共 立 銀 行	財 団 法 人 田 口 福 寿 会 社
株 式 会 社 K V K	サ ン メ ツ セ 株 式 会 社
株 式 会 社 後 藤 舂 卵 場	昭 和 コ ン ク リ ー ト 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 十 六 銀 行	大 日 本 土 木 株 式 会 社
株 式 会 社 ス ギ ャ マ メ カ レ ト 口	太 平 洋 工 業 株 式 会 社
株 式 会 社 文 溪 堂	中 部 電 力 株 式 会 社
河 合 石 灰 工 業 株 式 会 社	東 海 旅 客 鉄 道 株 式 会 社
岐 阜 ガ ス 株 式 会 社	日 本 耐 酸 壤 工 業 株 式 会 社
岐 阜 県 農 業 協 同 組 合 中 央 会	パ イ オ ニ ア 貿 易 株 式 会 社
岐 阜 車 体 工 業 株 式 会 社	長 谷 虎 紡 織 株 式 会 社
岐 阜 信 用 金 庫	矢 橋 工 業 株 式 会 社
岐 阜 精 機 工 業 株 式 会 社	有 限 会 社 東 海 蜂 蜜 社
岐 阜 乘 合 自 動 車 株 式 会 社	ユ ニ オ ン テ ッ ク 株 式 会 社

これまで上記の企業団体から、奨学寄附金のご協力をいただきました。誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。

(50音順、敬称略)

◆編集後記

岐阜大学国際交流委員会発行のニュースレター27号を、ここにお届けします。本誌を通じて岐阜大学における国際交流の一端を学内・学外のできるだけ多くの方々に知っていただくために、この紙媒体のものに加え岐阜大学のホームページ上に本号をPDF形式で公開することにしました。皆様のご協力を得ながら今後の活動をより良いものにしていこうというのが我々の願いです。

2001年度、岐阜大学は、ヴェスプレーム大学（ハンガリー）、アンダラス大学（インドネシア）、バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）の3大学と新たに学術交流協定を結びました。本号にその3大学の紹介を掲載しています。交流協定を結んだ大学とは、研究者や学生の相互の受け入れ等で、いろいろな便宜が図られる場合があります。

今回は、従来から掲載している留学生体験記、短期留学推進制度の紹介の他に、岐阜大学の学生がどのくらい留学をしているかという情報と留学同好会の活動報告を加えました。留学をするにはどうすればいいのだろうと考えている学生は本誌をきっかけにしてもう一度「学生便覧」を見直し、準備を始めてはいかがでしょうか。学生諸君の国際交流場面での活躍を期待しています。

今後も理想的な国際交流のあり方を目指し、またより良い広報誌にしていくために、皆様の御意見・御要望をお待ちしております。（愛木）

（お詫び）

前26号の"外国人留学生からのメッセージ" 中、工学研究科、肖云翔さんの所属は、（ソウル産業大学）ではなく、（中国）の誤りでしたので、訂正してお詫びします。

編集者：学術交流専門委員会：杉野直樹（地域科学部）

留学生交流専門委員会：愛木豊彦（教育学部）、中須賀徳行（留学生センター）

事務局：鶴野友栄（研究協力課）、黒田広子（研究協力課）

北條泰親（留学生課）、森勉（留学生課）

研究協力課国際交流室（Tel: 058-293-2011、Fax: 058-293-2022、
E-mail:kokusais@cc.gifu-u.ac.jp、ホームページ：<http://www.gifu-u.ac.jp/>）